

衣料用人工皮革の縫製条件設定のための基礎的研究 (第2報)

— 衣料用人工皮革の特性について —

大妻女子大学家政学部山下文子 東京学芸大学石毛フミ子 鳴海多恵子
辻菜子 大角江理子 山崎子 文教人 教育 松田歌子

目的

第1報と同じ。

測定

本報では次の6項目について測定をおこなった。(1) 収縮率 (2) 表面摩

摺係数

(3) 通気性 (4) 保温性 (5) 吸湿性 (6) ヒリリング性

方法

第1報と同様 織布のJISによる測定方法により測定をおこなった。

結果

(1) 収縮率 全試料とも 上下方向に収縮が大であった。たて・よこ方向の差

は人工皮革はフラノよりも小さい。脱水による影響は人工皮革にはないが フラノでは大であった。

(2) 表面摩擦係数 ① 人工皮革と裏地の摩擦係数は フラノと裏地の摩擦係数より大であった。② 裏地を下に人工皮革を上にした方が 人工皮革を下に 裏地を上にした方より摩擦係数は小さい傾向であった。

(3) 通気性 起毛編布と基材とした人工皮革は フラノと同程度の通気性を有するが 交絡組織のものはフラノよりもほるかに小であった。厚さはフラノと大体同じであるから気孔率に関係あるものとみてよいであろう。

(4) 保温性 天然皮革と近似した構造をもつ人工皮革はフラノよりもぐくくである。

(5) 吸湿性 起毛編布と基材とした人工皮革はフラノの水分率より大であった。

(6) ヒリリング性 人工皮革でも毛足の長いものは 毛足のよれがみられるが 毛足の短いものについては変化はみられなかった。同じ条件において フラノには明らかにヒリリングが認められた。